

この度、2012年6月1日～6月5日までシカゴで開催されました ASCO 2012 に、JACCRO 短期海外派遣制度にて参加させていただきました。私は ASCO への参加は3年ぶり2回目でしたが、前回同様、surgical oncologist としてエビデンスを塗り替えるような発表を生で聴きたい、見たいという希望が叶い、たいへん感激して帰国しました。

さて今回の発表内容ですが、Gastrointestinal Cancer、特に Colorectal の分野に興味があるトピックスがありましたので、これらを中心に聴きました。いつか、注目した演題を御紹介します。

# CRA3503 一次治療においてベバシズマブ併用療法を施行した切除不能進行・再発大腸癌に対する初回増悪後のベバシズマブ継続投与の有用性：第 III 相ランダム化試験 (ML18147 試験)

ベバシズマブを含む一次治療増悪後においても、二次治療でベバシズマブを継続投与することにより主要評価項目である全生存期間を有意に延長することが認められたと報告され、今後の切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療、二次治療における BBP が前向きに検証され、ベバシズマブの使用法に注目しています。

# 3508 切除可能な肝転移を有する大腸癌患者への術前 FOLFOX4 療法：EORTC 40983 試験による長期生存の結果—無作為多施設共同第 III 相試験

この試験の primary endpoint であった PFS が術前 FOLFOX4 療法で有意に改善したことは以前報告されましたが、今回副次的評価項目である長期 follow up した生存期間において有意な改善は示されなかったと報告され、術前 NAC が有用なのか、どうか疑問が残る結果でした。

# 3502 切除不能進行・再発大腸癌における Regorafenib の第 III 相試験：CORRECT 試験

経口マルチキナーゼ阻害剤である Regorafenib が、標準治療抵抗性を示すようになった切除不能進行・再発大腸癌に対し、プラセボ群と比較し、OS, PFS において有意に改善したと報告されました。切除不能進行・再発大腸癌に対する標準治療に抵抗性を示

した後に使用可能な新薬が登場したことに対し期待しています。

他にも注目した演題は多数あり、世界中の臨床試験の結果が明らかとされ、ASCO での情報量の多さには感心させられました。また、この ASCO 開催中期間で多くの日本人の oncologist とお知り合いになることができたことも私にとっては大きな財産です。あらためて臨床試験の重要性を認識し、JACCRO をはじめ、臨床試験に参加・協力し、日本からも新たなエビデンスの発信ができればと motivation をあげることができました。

最後に、このような貴重な機会を与えていただきましたこと、JACCRO の関係者の皆様に深謝申し上げます。